

親鸞仏教センター連続講座「親鸞思想の解明」

親鸞の生きた人生態度を、現代社会の大切な思想として掘り起こそうと、親鸞の思想・信念を時代社会の関心の言葉で思索し、考え直す試みとして公開講座を行っています。

「浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—」③⑧

信心の能動性

親鸞仏教センター所長 本多 弘之



連続講座「親鸞思想の解明」は、「浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—」の第93回と94回が東京国際フォーラム（有楽町）で行われ、この両回では「三輩段」について、センター所長・本多弘之が問題提起をし、有識者と一般参加者の方々との間で活発な質疑応答がなされた。ここでは、先に行われた第91回から一部を紹介する。

（親鸞仏教センター嘱託研究員 越部良一）

■ 「能信」

金子大榮先生が大変丁寧に教えてくださっているのですが、親鸞という人は全部受動型だと。教・行・信・証、すべて如来の回向であり、救済もいただき、全部いただくのだと。これはある意味でよくわかるのですけれども、何か納得できないところがある。つまり、能動性が出てこない。曾我量深先生は、すごく積極的なのですが、それがどこから出てくるかといったら「能信」だと。

行に対する真実信心というあり方を、曾我先生は「所行・能信」という関係だとおっしゃった。

行は「所行」の法だと強くおっしゃる。「能行」というと凡夫が行ずることになって、自力になりますから、曾我先生は「能行」とおっしゃらない。能は行につかずに信につく、「能信」だとおっしゃる。如来の大悲回向に行ぜられているから「所行」ですが、それを信ずる責任は衆生にあるのだと。衆生が信じなければ、行は衆生にはたらない。

欲生心成就の文の始まりは「至心回向」で、これは如来の回向だと。何を回向するかといったら、大行を回向する。大行の回向をいただいたと

ころから欲生心が始まるから、欲生心は衆生のなかに、願いが立ちあがってくるのだと。ここで曾我先生の語り方は、あたかも凡夫が欲を起すように語るのです。つまり「能」の形で語る。衆生に能動性が出てくるのだと。これがいくら読んでいてもわからなかったのです。なぜ回向であったものが、われわれの能動性になってしまうのか。

■ 深層意識のレベル

曾我先生の本は読むとさっぱりわからない。わからないけれども、もう一度読んでやろうと、何かすごい活気を与えられるわけです。理性的自己でわかるわけではない。しかし、何かつき動かされるものがある。曾我先生自身も、それを感じながら講演されるものだから、講演しているうちにだんだん興奮してきて、手が上がってきて、声が甲高くなって、それを聞いているほうも興奮してきて、という講演が何回かありました。そのような会座に出遇うと嬉しくなってしまうのです。何か本願が本当にはたらいてきて、受けとめられた人にはたらき出して動かす。その動かすレベルは、現代の精神分析的な心理学的言語で言えば、深層意識にはたらく。

欲生心成就は、どこで成就するかといったら、理性レベルではないのです。聖典にこう書いてありますとか、インドでこう言っていますとか、そういう言葉を集めてきて、はいわかります、というレベルを作り上げるのは学問の世界で、そのようなことを木っ端微塵に吹き飛ばしてしまうほど深いレベルの体験を起こしてくれるのが本願力のはたらきでしょう。

それと正反対に、現代は合理主義、経済合理性と、全部、知的レベルで計算する。宗教レベルが見えない。そのようなものはないものだと思っている。ないものを信じているのは迷信だと思っている。迷信しかわからないのが現代生活なのですね。

■受動全部をもって能動に転ずる

われわれの発想、つまり一重的自己からすると、不純粹の間は純粹になれない。凡夫であったら金剛になれない。この世を生きているのであるから浄土を生きるわけではない。そのように矛盾するものを分けるわけです。しかし、矛盾するものが出会う場所が与えられるのだと。能動と受動が矛盾していると思って、受動である限り能動になれない、それでは元気が出ない。曾我先生はどうして能動になれるのだろう。長い間、そのようなわからなさがあったのですけれど、宗教的^{えしん}回心が起こるレベルは深層レベルなのだ。如来のはたらきだけれど、それが起こっている事実^{じじつ}に気づくのは、それが表層レベルにまで、つまり地中のマグマが下で動いているだけでなく上まで吹き出てくる、これが能動性になる。はたらきは受動性で受けとめるけれど、出てきたときには能動性になる。こうして、回向の信心^{しん}なのだけれども、信心に「能信」、「能」ということが出てくる。これが言えるのは、欲生心^{よくせいしん}なのだ。欲生心が回向心だと親鸞聖人が押さえる意味を、曾我先生は、受動全部をもって能動に転ずるのだと、このようにおっしゃるのです。

曾我先生は、ほとんど叫んでおられるのです。でも、わからない。こちらの耳に聞こえてこない。このようなまどろっこしい経験^{けいけん}が長い間あり、もう、曾我先生が亡くなられて45年くらいになるのですが、あの叫びが耳の底にまだとどまっているのです。あの元気がどこから出てきたのだろう。本願からきているのだと、不思議な因縁^{いんごん}で、やっと少しわかった^{うなず}というか、^{うなず}頷かされてくるようになりました。

■2016年

- 8/1 人事発令(飯島孝良嘱託研究員、佐々木啓書記補が発令。越部良一、法隆誠幸が嘱託研究員として再任)
- 8/4 第3回「『教行信証』と善導」研究会
- 8/7 「宗教・イメージ・想像力」研究会第2回シンポジウム(日本女子大学): 飯島研究員発表「メディアとしての一休「像」とその禅文化史的意義」
- 8/8 第28回『西方指南抄』研究会
- 8/9 第190回英訳『教行信証』研究会
- 8/12 ご命日のつどい
- 8/20 東アジア人文フォーラム(北京大学): 中村研究員発表「浄土と心の問題」
- 8/25 第94回(通算第145回)連続講座「親鸞思想の解明」(千代田区・東京国際フォーラム)
- 8/29 第169回清沢満之研究会
- 9/2 第191回英訳『教行信証』研究会
- 9/4 日本印度学仏教会第67回学術大会(東京大学): 中村研究員発表「證空における「化前序」説成立とその展開」
- 9/9 ご命日のつどい
- 9/11 日本宗教学会第75回学術大会(早稲田大学)パネル「明治期における宗教体験の語りとその伝播」: 長谷川研究員パネル発表「宗教的「実験」の系譜—原坦山の心性実験録一—」
- 9/13 第29回『西方指南抄』研究会
- 9/14 第170回清沢満之研究会
- 9/15 第4回「『教行信証』と善導」研究会
- 9/17 国際井上円了学会第5回学術大会(東洋大学): 長谷川研究員発表「井上円了の「仏教改良」について」
- 10/4 第192回英訳『教行信証』研究会
第95回(通算第146回)連続講座「親鸞思想の解明」(千代田区・東京国際フォーラム)
- 10/11 第30回『西方指南抄』研究会
- 10/14 ご命日のつどい
- 10/17 第5回「『教行信証』と善導」研究会
- 10/24 第171回清沢満之研究会
- 10/31 平成28年度西山深草派宗学院研究科生発表会(西山深草派総本山誓願寺): 中村研究員発表「諸行本願義における「雑行専修」をめぐる問題—西山義の批判を中心として—」

掲載論文

- 10月 『深草教学』第27号
中村研究員「顕意『浄土疑端』成立過程の検討」